

ベトナム・タイ経済訪問団の派遣について

富山県商工労働部立地通商課 物流通商班長 小竹 敏弘

1 はじめに

富山県は2014年12月、アジアトップクラスの経済成長を続けるベトナム及びASEAN経済圏の中心地として発展を続けるタイへ経済訪問団を派遣した。

今回は、経済訪問団として関わった行事の概要についてご紹介する。

2 日程

	日 程
12月 16日(火) 【1日目】	○経済訪問団結団式 ・富山きとときと空港→羽田→成田 →ホーチミン 【ホーチミン泊】
17日(水) 【2日目】	○ニョンチャック工業団地視察 ○ファインネクスベトナム社視察 ○現地進出企業等との交流会（ホテル・ニッコー・サイゴン） 【ホーチミン泊】
18日(木) 【3日目】	・ホーチミン→バンコク ○アマタナコン工業団地視察 ※知事合流 ○一般消費者向け観光PRイベント(*) ◎富山タイ協会、平成広徳塾との交流会（ホテル・スコータイ）(*) 【バンコク泊】
19日(金) 【4日目】	○タイ科学技術省訪問(*) ◎HDKタイランド社視察 ○サムットプラカン県訪問 ○観光説明会(*) ◎富山ものづくりセミナーinバンコク(*) ○タイ工業省訪問(*) ◎BOIブリーフィング ◎現地進出企業等との交流会（インターコンチネンタル・バンコク）(*) 【バンコク泊】
20日(土) 【5日目】	・バンコク→羽田

◎富山タイ協会との合同事業

*富山県知事が参加した事業

3 現地における事業概要

12月17日（水） ホーチミン

(1) ニョンチャック工業団地訪問

プラント設備の製造をメインに、ニョンチャック

工業団地の代理店として、進出日系企業へのサポートサービスを行っているソルテックベトナム社を訪問した。

同社の薛社長によると、2011年は10社足らずだった同団地の日系企業数は、港に近いことや高速道路の整備が進んだこと等から現在は29社まで増えた。納期と品質を守ることでローカル企業に対する優位性が保たれているという。

(2) ファインネクスベトナム社訪問

ファインネクスベトナム社の佐伯社長から同社の事業について説明を伺った。

ベトナム社の概要

- ・2012年、工場稼働開始、精密機械部品を製造。
- ・創業当初は日本の本社向けの製品のみを製造していたが、この2年で国内販路を開拓し、今や仕向け先の8割はベトナム国内企業である。
- ・密な意思疎通を図れるよう、事務、製造スタッフともに日本語が話せる人を採用している。

ベトナムのビジネス環境について

- ・ベトナム人従業員は手先が器用で勤勉、物覚えが速い。
- ・懸念事項としては、労務・税務に関する法令が変わるのが速く、遡及効や罰則がある場合もあるため、こまめに情報を入手しながら対応しないといけない。

(3) 現地進出企業等との交流会

夕食時に、現地進出企業等との交流会を開催。現地進出企業関係者、在ホーチミン日本総領事館、ジェトロ・ホーチミン事務所等約30名が参加して、活発な意見交換を行った。

在ホーチミン日本国総領事館の矢ヶ部首席領事から、日本とベトナムとの交流関係について、

① 2013年に日越外交関係樹立40周年を迎え、2014年3月にサン国家首席が国賓として訪日し、首相との会談の中で日越関係を「広範な戦略的パートナーシップ」という新しい次元へ発展させることで一致した。

② 日系企業の進出は全国で2,000社に増え、ホーチミンを含む南部では商工会会員企業が740社、在留邦人も7,300名に達した。

などと良好な関係が続いていることが紹介された。

12月18日（木） バンコク

（1）アマタナコン工業団地視察

バンコクに移動後、タイ国内最大の工業団地であり、600社を超える企業が立地するアマタナコン工業団地を訪問した。

アマタ社の近藤氏によると、同工業団地は商業施設、医療、教育、娯楽等の機能を備えたパーフェクトシティーを目指して開発が進められており、現在は第10期の造成中であるという。

12月19日（金） バンコク

（1）タイ科学技術省表敬訪問

石井知事以下知事本団6名が、タイ科学技術省のピチェート・ドゥロンカウエロート大臣等を表敬訪問した。

石井知事から、富山大学、富山県立大学の学長からの親書をピチェート大臣に手渡し、両大学、さらには経済界と連携・協力して留学生の受入環境の整備を図っており、今後も必要な努力をするので、留学生の増加、学術交流の促進に尽力いただきたい旨要請した。



タイ科学技術省表敬訪問（写真左はピチェート大臣）

（2）HDKタイランド社視察

知事本団以外のメンバーは、アユタヤ県ハイテック工業団地内にあるHDKタイランド社（北陸電気工業）を訪問した。

高田社長によると、当地は失業率が0.7%であるため、ワーカー集めが容易ではないこと、同社は製造拠点をタイのほか、富山、上海、フィリピンにも有しており、主な設計を富山でやっていることから、危機対応時にはラインを移管することも可能である旨説明があった。

（3）サムットプラカン県知事・工業連盟支部長との面談

麦野副団長（株北陸銀行会長）以下5名がベストウェスタンアマランスワナプームホテルにおいて、サムットプラカン県のピニット・ハーンパニッチ県知事、コムサン・ラオシラパチャロン工業連盟支部長ほか約25名と面談した。

YKK(株)佐々副社長から、タイYKKはR&Dの拠点として労働集約から技術集約へと位置づけを変えてきており、タイを中心とした物流を検討する場合、南北と東西の高速道路の建設を速やかに進めることが重要、また市内道路の渋滞対策を検討してほしい、との要請を行ったところ、コムサン支部長から、お互いの県同士が協力してR&Dセンターを設置すれば、それぞれの県が発展し、win-winの関係を築ける、との発言があった。

ベトナム・タイ経済訪問団の派遣について

(4) 富山ものづくりセミナーinバンコク

午後2時から、インターコンチネンタル・バンコクにおいて、「富山ものづくりセミナー」を開催した。経済訪問団をはじめ、富山タイ協会、現地日系企業、現地ローカル企業等が参加した。

石井知事から、以下の挨拶を行った。

- ① 富山県には工作機械や自動車部品、電子部品、アルミなどの分野で高い技術力を有する企業が集積しており、タイとのビジネスについても早くから実績を積み重ね、現在では46社58事業所が進出している。
- ② 本セミナーを契機にタイと富山県のビジネス交流が一層拡大し、win-winの関係で共に発展することを期待している。
- ③ 2015年4月開催予定の「富山県ものづくり総合見本市2015」にタイ企業も参加してもらいたい。その後、本県の概要、経済訪問団参加の9社の事業や製品・サービスの概要、各企業の独自技術などについてPRした後、交流会では、活発な情報交換が行われた。

(5) タイ工業省とのMOU締結式

知事本団7名がタイ工業省のチャカモン・パーサクワニット大臣等を表敬訪問し、チャカモン大臣立会いのもと、石井知事とタイ工業省アーテイト産業振興局長がMOUに署名し、それを受けた形で、タイでの漢方薬の開発・生産について廣貫堂とCDIP社、JSP社とが協定を締結した。



タイ工業省とMOU締結（写真中央はチャカモン大臣）

(6) タイ投資委員会（BOI）ブリーフィング

知事本団以外のメンバーは、タイ投資委員会の原田アドバイザーから、2015年から開始される新投資奨励政策についての説明を受けた。

（※政策の内容については、当誌海外便り【タイ】(P.25)で取り上げる。）

(7) 現地進出県内企業等との交流会

現地進出企業等との交流会を開催した。プラモート工業省副大臣、佐藤在タイ日本国特命全権大使、ヒライヤ投資委員長官代行をはじめ、県経済訪問団、富山タイ協会、バンコク日本人商工会議所、現地進出企業関係者など70名近い参加があった。



4 おわりに

今回の派遣事業の実施にあたり、工場を視察させていただいたファインネクス、北陸電気工業の皆様をはじめ、多くの方々にご支援をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

短い日程の中で2カ国を訪問し、政府表敬、セミナー、交流会の開催、工場視察等充実した内容となりました。参加企業の皆様にとって、今回の訪問が今後の東南アジアへの事業展開に少しでも役立つことを願っております。